



Art & Craft Workshop

- 龍神村のほんまもん体験・ワークショップなど**
- とうふ 龍神地釜とうふ工房あん
 - 山路紙手漉ぎ体験 山路紙漉ぎ工房
 - チェンソーアート チェンソーアート・ジャパン
 - 新聞紙で動物をつくる ミノズ・ギャラリー：溝端秀章
 - 藍染め体験 藍染計良 (あいぞめけいら)
 - エアブラシ体験教室 AIR BRUSH ART JAPAN YUSUKE
 - 切り絵と紙クワフト体験 養虫工房：ミノムシ
 - 羊毛フェルト体験 baroonworkshop
 - 郷土の歴史や民俗 晴明の里 語部：古久保 健
 - そばを育て、味わう NPOえさこねと龍神村
 - トレイルランニングと芋掘り 豆んと森
- *詳しくは、龍神観光協会までお問い合わせください。tel.0739-78-2222

Fishing

日高川にて釣りをするには鑑札が必要です。道沿いの各所に取り扱ひ店がありオトリも手に入ります。お問い合わせは、日高川漁業協同組合まで tel.0738-52-0224

龍神村の主な行事と季節の味わい

- (春)** 梅畑の梅の花が、川の下流から上流へと咲き移り、村中が花の香りに包まれます。サクラが咲き誇ります。ひと月ほどの間、数種類の山桜、八重桜、ぼたん桜が入れ代わり咲きます。スギ、ヒノキの緑の中で際立ってあざやかで、道沿いの桜も彩りドライブが楽しめます。
- 3月1日 アマゴ釣り解禁
5月 メイグリーン新緑の季節、町では見れない目の色のような木々の緑がすばらしい。
5月 鮎釣り解禁
6月 ほたるウォッチング 村の各所にて楽しめます。ホットスポット情報は龍神観光協会までホームページに、ほたるウォッチングマップがあります。
- (夏)** 村内の各キャンプ場が賑わいます。大勢の鮎師の姿が川に見かけられるようになります。8月14・15日 龍の郷益野球大会 半世紀以上の歴史があり、トーナメントで熱戦を繰り広げます。8月 中旬 龍神村盆おどり大会
- (秋)** 9月下旬～10月 そばの花が見頃になります。10月 下旬より紅葉がはじまり、山は豊かな彩りに染まります。11月 猪、鹿狩猟解禁
11月 第1日曜と文化の日 お宮の秋まつり(村内各所神社の秋季例大祭)
丹生神社は第1日曜が本宮。皆瀬神社、荒嶋神社は文化の日が本宮です。
獅子舞とオニワニ、お神楽、太鼓を備えた屋台をつかぎ境内をねりまわりして最後に宮入りをし、お神楽を奉納、もちまきなどをして、賑わいます。全村民が湧き立つ日です。
各地区、それぞれ太鼓やお囃子のリズムが違い、太鼓のたたき手が入れ代わり腕を競い合う、聴きどころ見どころいっぱいのおまつりです。
- 11月 中旬日曜 関西実業対抗駅競大会
11月 中旬の土日曜から数日間 翔龍祭(龍神林業まつり・村民文化祭)
村の物産や龍神村を使った木工品の販売、有名レストランなどの食堂街への出店ほか、フリーマーケットやオークション、村民のこどもから作家までの制作作品や、音楽、舞踊、太鼓などの舞台発表など、龍神村の文化が一堂に集まる村最大のビッグイベントです。
- (冬)** 龍神岳や護摩壇山のあるスカイライン周辺で、樹木の枝が氷で覆って花のような霧氷が見られます。12月 初旬 龍神温泉木の郷マラソン大会
1月 南国紀州の雪遊び

その他に、村の各所の旅館、ギャラリーなどで、企画展や作品展など、龍神村や周辺の作家の作品展示、食の交流会などが行われています。詳しくは龍神観光協会、龍神村商工会などのホームページをご覧ください。

Event

B29慰霊碑(健合軍戦没アメリカ将士の石碑)

1945年5月5日に殿原小学校対岸の山中に、アメリカ軍B29爆撃機が墜落しました。搭乗員11名(推定)のうち4名が連行逮捕され、死亡7名(推定)は、現地に埋葬されました。1947年12月12日に現地に供養塔が建立され、その後1995年に今の場所に移設されました。また、最近になってB29の機体の一部が新たに見つけれられています。

陰陽師 安倍晴明の伝説

安倍晴明(あべのせいめい)が、殿原に住む一若という土地の男に、金銀目当てにだまされ、崖から突き落とされて死んだ。しかし、男が見に降りると岩に腰掛け生きていて、晴明はその男にさいふをやった。男が家に帰って見てみるとお金は木の葉になっていたといひます。そして、その男の一族はみな次々と難病にかり死に絶えたといひます。突き落とされた淵を「晴明ヶ淵」といひ、今も伝えられています。

また、殿原の谷口に住んでいた晴明は、笠塔山の頂上で妖怪が三匹の白馬を駆け回らせ、奇怪な人形芝居をし村人らを恐れさせていました。晴明は三日三晩、笠をさし護摩を焚き、法力でそれらを封じてしまつたといひます。そこから笠塔山の名がついたといひわれています。

また別の話に、晴明が谷口で田植えをした時、その田のヒルの口をひねった。その時から谷口のヒルは血を吸わなくなったといひ話などが今もいひ伝えられています。

美人の湯

龍神温泉の起源 一役ノ小角 えんのおづぬ
日本三美人の湯の龍神温泉は、西暦700年頃に大和国の修験道の間道である役ノ小角(役ノ行者)がこの地に差し掛かったとき、怪しい煙が立ち上るのを見つけ、そこを錫杖で突いたところ温泉が湧き出たといひのが、はじまりです。

空海と難陀龍王

そして、100年程経った平安時代、空海(弘法大師)がこの地を訪れたとき、役ノ行者の徳を慕ひ、自ら薬師如来の尊像を刻み、庵を建て安置したところ、八大龍王のトップ、難陀龍王(なんだりゅうおう)が現れ、「私は衆生を救済したいと立願し、幾年も過したが、今大師に出会い、こんな幸いことはない。と、よろこび滝の底へ消えたといひます。空海はその温泉を龍神温泉と名付け、その後、1705年に高野山興山寺の末寺となり、温泉寺と改名されました。

History

紀州徳川——南龍公のお気に入り
江戸時代の初期、紀州徳川初代藩主頼宣公の特別の保護を受け、歴代藩主の湯治場として大いに発展しました。藩主上の保養入湯の御殿として造営されたのが上御殿で、お供の家屋号には下御殿が造営され、今も伝統ある屋号は引き継がれています。上御殿は、平成11年に国の登録有形文化財に指定されました。

湯ノ又

- 龍5-道の駅龍神ウッティプラザ木旅館
- 龍6-香房ゆず夢/観光宿泊案内所
- 龍7-龍神♡は〜と
- 龍10-美人亭
- 龍11-旅館さかい
- 龍12-観光旅館萬屋
- 龍13-若山屋商店
- 龍14-上御殿
- 龍15-有軒屋
- 龍16-下御殿
- 龍17-龍神温泉元湯
- 龍18-龍神温泉元湯別館
- 龍19-田舎料理ほったて小屋
- 龍20-花屋商店

天誅舎

天誅組の妾のあと、1868年9月に水都善之祐(にこりぜんのみすけ)ら八人の天誅組の志士が、龍神の山里、小又川まで落ち延び進軍をやり自衛し、捕われました。八人は小又川の農夫喜助の倉庫に幽閉され、年若い13歳の英太郎ひとりを除き、10月3日に七人は京都六角の獄舎で斬首されました。英太郎は、後に検事となり活躍されたそうす。県指定文化財。

紀州徳川——南龍公のお気に入り

江戸時代の初期、紀州徳川初代藩主頼宣公の特別の保護を受け、歴代藩主の湯治場として大いに発展しました。藩主上の保養入湯の御殿として造営されたのが上御殿で、お供の家屋号には下御殿が造営され、今も伝統ある屋号は引き継がれています。上御殿は、平成11年に国の登録有形文化財に指定されました。

曼陀羅ノ滝

温泉寺の裏山を登って約15分のところにある繊細な滝で、空海がこの滝に打たれ、自然そのもの持つ靈気が満たされながら、修行に励んだと伝えられています。また、中里介山の小説「大菩薩峠」の「龍神の巻」で主人公がこの滝の水で失明寸前目の目を洗った舞台にもなっています。



Nature

護摩壇山ごまだんさん周辺のみどころ

高野龍神国定公園に指定されている、護摩壇山を代表とした山並みは、紀州の屋根と書かれています。2009年、護摩壇山の東どりにある山に龍神岳と命名、標高1382mの県内最高峰の山が誕生しました。高野龍神スカイラインは、世界遺産の霊峰高野山から龍神村を結ぶ4.27km、稜線からの眺めは格別です。よく晴れた日には、遠く紀伊水道や四国の山々までも見ることが出来ます。また、山の南斜面には、ブナやミズナラ、サルグルミ、ツガなどの原生林が広がっています。護摩壇山森林公園ワイルドドライブがあり、6万本の日本一のしゃくばげ園や林間広場、総合案内施設(12月～3月休館)があります。山の周辺にはいくつかのトレッキングコースがあり、遊歩道も整備されています。紅葉の季節には、山全体がカラフルに色づき、冬には雪景色や霧氷を見ることも出来ます。四季それぞれの雄大な自然が満喫できます。* * * 冬期には道路凍結の為、一部交通規制がありますので、情報にご注意ください。詳しくは龍神観光協会まで

維盛伝説

1184年、源平の屋島の合戦のさなかに、陣を抜けて逃した者がいた。小松三位中将平維盛とその家の衛門の三人が、高野山を経て、この護摩壇山のふもと小森谷の渓谷に落ち延び隠れ住んだ。平家再興を願ひ、天が味方するか、命運を占う為に山の頂上で炉を設け、護摩木を段に積み上げ、火を放ったが煙は天に昇らず、谷に下り、古いは凶と山を下った。護摩壇山の名はこのことにより付けられています。そのうち、維盛は熊野那智の海で入水死したといひ。これを聞いた衛門と嘉門は、渓谷の滝に投身し維盛の術を追い殉死したといひ伝えられ、そこには「衛門と嘉門の滝」といふ二つ並んだ滝があります。また、「お屋敷址」の下流には、土地の娘お万との悲恋物語の舞台となっている、白粉を濡した「白塵」、紅を捨てた「赤塵」、そして維盛を慕い身を投げたといひ「お万ヶ淵」が、この小森谷渓谷にあります。

Legend

一部文章は、季刊快活生活誌CB08号より参照 Illustration@mizooka